

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4770200063
法人名	医療法人 信愛会
事業所名	グループホーム 東山
所在地	904-1102 沖縄県うるま市石川東山2丁目24-10 (電話) 098-965-1202

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成21年2月20日

【情報提供票より】(H21年1月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8(内兼務1)人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート 造り
	3 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費日額 200 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(1月13日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	68 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中頭病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当施設は、閑静な住宅街にあり、3階建ての1階部分がグループホームである。入り口は広くバリアフリーで車椅子でも自由に出入りできる環境である。玄関前には、既設の椅子があり、気軽に日光浴や外気に触れることができる。玄関先からは共有スペースが一望でき、日当たりも良く明るい住環境である。利用者がそれぞれの時間を過ごし、職員が寄り添っている姿は家族的な雰囲気が漂う。共有スペースや廊下には利用者の作品やスナップが掲示され、日常の活動をみることが出来る。居室についてもそれぞれの個性があり、家族からの葉書や写真などが掲示され、家族を身近に感じながら過ごされている様子が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて改善の努力をしているが、十分な改善には至っていない。この1年、管理者も含め採用後1年以内の職員が多く、現場を理解することに重点を置かざるを得ない状況であった。そんな中ではあるが、職員全員が、評価事業の重要性を理解しチームワークも良い。現在、管理者と職員で事業所独自の理念を4月からの実施を目指して作成中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	早急に、グループホーム独自の理念を作成し、壁面掲示や職員間の日々の唱和等を通して職員の共通理解を図り、利用者の生活の質の向上に向け、日々のケアに反映させていく必要がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議から、「地域住民は、認知症やグループホームに対する理解が浅いのもっと啓発が必要である」旨の提案を受けた。提案を受け、グループホームの入り口に運営方針を掲示し、来訪者や地域の人々への啓発活動を実施した。自治会へも加入し、自治会主催行事やグループワークで企画する行事等にも参加できるきっかけとなり、運営推進会議の効果が徐々に浸透している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置しているが、ほとんど利用されていない。施設の行事や利用者の状況等については年2回「ホームたより」を通して行っている。今後は、効果性を考慮し、利用者個人に重点を置いた情報を提供できるよう、「個人たより」に移行し、その「個人たより」を通して、家族からの意見や相談、施設からの情報提供についても充実させたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、自治会行事への参加等交流もできるようになった。グループワークでの行事にも自治会からの参加もあり、徐々にではあるが、地域住民との連携は取れつつある。これからも「地域との関わりを大切にし、待ちの姿勢ではなく、積極的に働きかけ地域から愛される施設を目指している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体の理念を基本として運営され、「家族的雰囲気」をケアの目標としている。事業所独自の理念を職員と協議中で、新年度からは独自の理念にもとづくケアをしたいと職員一丸で取り組んでいる。	○	前回の評価での改善目標であったが、現在取り組み中なので新年度(21年4月)からの実施に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	協議中の理念を完成させ、その理念を職員全員が共有し、日々のケアに活かせることを目標に取り組んでいる。	○	管理者・職員がケアに対する思いとチームワークを活かして理念を具体化し、日々の実践につながる事を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会行事への参加、グループホームでの行事に自治会からの参加等、地域との交流・連携は取れつつある。管理者は施設側からこれまで以上に積極的に働きかける必要性を感じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価は、主に管理者が職員の意見を聞きながら作成した。前回の外部評価結果報告を、職員の勉強会で取り上げている。評価の意義を理解し、改善に向けて取り組む姿勢がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は設置・運営されている。委員から「グループホームの啓発の必要性」の提言を受け、啓発活動に取り組んでいる。運営推進会議の重要性を認識し、充実した会議の運営を目指している。	○	運営推進会議の内容は「事業報告」レベルにとどまっている。会議の内容を家族等にも公表するなど、運営推進会議の機能を更に活かすことで、事業所運営の活性化が期待されるので、今後の運営方法を検討して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会への参加程度であるが、利用者のアフターケア等について必要がある場合は相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	健康状態や金銭管理等は面会時や電話等で、行事等については年2回の「ホームたより」で報告している。今後、「ホームたより」を「個人たより」に切り替え、より充実した情報提供に努めていく予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はあるが、利用されていない。家族からの要望もあまりないので、管理者は今後、アンケート等を実施し、積極的に取り組んでいく予定である。	○	家族がいつでも意見や不満、苦情等が相談できる方法について検討し、実施していただく事を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営母体の方針により、人事異動が多い。退職(異動)の2週間前には退職者本人から信頼関係の深い利用者に説明をし、不安の緩和(軽減)に心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体やグループホーム連絡協議会主催の研修会に参加しているが、体系的研修には至っていない。職員は休日開催の研修会に参加している。「公的資格」取得者には「資格手当」があり、励みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者研修(管理者研修)は年6回程度、法人研修は年4~5回企画されている。特に、若い職員は優先的に参加してもらい、より質の高いサービスが提供できるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には、本人や家族に下見や体験(おやつ時間等)を薦め、安心して入居できるよう配慮している。家族の事情で即入居の場合もあるが、その場合は、馴染むまでの間、家族の付き添いやこまめな面会で、安心できる環境をつくっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の趣味や得意なこと、過去の経験・職業等を、日常の会話や家族の情報から得て、残存能力を把握し、本人が出来ることは積極的に関わってもらっている。また、日々の介護から喜怒哀楽を感じ取り共感し、寄り添っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や本人の訴えを大切にしている。その訴えの背景についても理解する努力をし、本人の意向を優先している。	○	日常の言葉や行動から、利用者の意向や希望を把握し、支援に活かしている。その意向の職員間共有は口頭連絡が主である。今後、アセスメント用紙等へ記載し、情報の共有化と介護計画の見直しに反映されることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	勤務体制から、特別にカンファレンス等の時間設定はないが、日常の関わりで情報を把握し、ケアに活かしている。家族の要望は、面会時に把握している。家族アンケートの実施はないが、今後実施してケアにいかしていきたいと考えている。	○	家族を含めたカンファレンスは実施していない。面会の際家族の意向を聞いているが、介護計画に十分反映しているとは言い難い。ケアの根拠となる介護計画であることから、早急に現状に合わせた介護計画の作成がなされることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の関わりを通して情報を把握し、ケアに活かしているが、介護計画の見直しはされていない。	○	現状に合わせた計画となっているか、ケア効果の評価等、介護計画を定期的に見直し、日々変化する利用者のニーズに合わせた介護計画の見直しをしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や医療券の受け取り等、本人や家族からの要望についてはその都度対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、それぞれの主治医の下で健康管理がなされ、利用者によっては主治医の定期的往診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階で、家族からの相談もなく、デリケートな課題なので家族への働きかけも躊躇している。具体的に職員、法人内での話し合いはないが、先ず、職員間で話し合うことから始めたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の希望で、入室時のノック、午睡や就寝時のドア閉め(利用者の希望)等を徹底している。個人台帳は鍵付き保管庫で管理している。呼称は「さん」づけで1人ひとりの誇りを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事等基本的なプログラムはあるが、利用者の体調やペースを考慮して支援をしている。但し、利用者によっては、部屋にこもる場合もあり、自立支援の視点から「促し」や「声かけ」で室外に誘っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・盛り付け等、利用者も役割がある。係が、配膳等をしないと、仲間たちの「当番さん！」と声かけに、「今日は腰が痛い！」と返し笑いが起こり、和やかである。職員も共に食事しながらメニューの説明をしたり、語りかけたり、家族的雰囲気漂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝の入浴を希望する人が多い。季節により入浴の回数は違うが、本人の希望に添っている。受診日や外出の際は積極的に入浴の申し出があるので、その都度対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜皮むき・洗濯物たたみ・食事時の挨拶等、日常的に利用者の役割がある。農業をしていた方には土の管理、種のまき方等の知恵を頂いている。現在、個々に合わせた菜園づくりを企画中である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は希望に添って対応している。玄関前には腰掛が設置され、利用者は自由に腰掛け、往来する地域の人々と挨拶を交わしている。老人クラブに加入希望については、現在支援交渉中である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に出入り口はオープンにし、職員が安全面に気配りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練マニュアルが作成されているが、今年度はまだ実施していない。早急に、地域の方々の協力を得て実施していきたいと考えている。	○	2月に管理者が防災研修を受講しており、近々訓練の実施計画もあるので、実施の際は近隣住民の協力も得ながら、取り組んでいただく事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調を考慮し、状態にあった工夫や水分補給に心がけている。水分摂取も記録され、補給量と排泄量には気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁面には行事の写真や利用者の作品(習字)が掲示され、利用者の日々の表情が紹介されている。窓の外には桜の樹が季節を伝え、利用者が「桜がきれいだったよ」と笑みを浮かべていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁面には家族や孫たちとの写真やプレゼントが飾られ、家族を身近に感じながらの生活空間である。採光や風通しもよく、ベランダへの出入りも可能で、圧迫感がない居室環境である。		